

DRUG

INFORMATION

2003 No. 28

岐阜大学医学部附属病院薬剤部
医薬品情報管理室（内線2834）

平成15年12月5日発行

目 次

1. 医薬品の採用・採用中止について 1
ー平成 15 年 12 月 4 日の薬事委員会結果ー
2. 新規院内処方医薬品について 3

※ Drug Information は医学部ホームページの下記アドレスにて提供しています。
<http://www1.med.gifu-u.ac.jp/drug-info/index.htm>

電子メールによる連絡を希望される方は下記までご連絡下さい。
yaku@cc.gifu-u.ac.jp

医薬品の採用・採用中止について

新規院内試用医薬品

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ユーゼル錠 (ホリナートカルシウム)	25mg/錠	還元型葉酸製剤	大鵬
イントロン A 注射用 (インターフェロン- α -2b)	300 万国単位/V	インターフェロン製剤	シェリング・プラウ
ドブポン注シリンジ (塩酸ドブタミン)	[0.3%] 150mg/50mL/本	急性循環不全改善剤	協和醗酵
ノボラビッド注フレックスペン (インスリンアスパルト)	300 単位/3mL/本	超速効型インスリン製剤	ノボ・ノルディスクファーマ

院内採用医薬品

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
セロクエル錠 (フマル酸クエチアピン)	100mg/錠	抗精神病剤	藤沢
ピラマイド末 (ピラジナミド)	原末	抗結核剤	三共
プレドニゾロン錠 (プレドニゾン)	1mg/錠	副腎皮質ホルモン剤	旭化成ファーマ
ラキソベロン液 (ピコスルファートナトリウム)	10mL/本 (ユニットドーズ)	緩下剤	帝人
ホクナリンテープ (ツロブテロール)	0.5mg/枚	経皮吸収型気管支拡張剤	マルホ
赤十字アルブミン 25 (人血清アルブミン)	[25%] 50mL/V	血漿分画製剤	日本赤十字
ヴィーン 3G 注	500mL/瓶	血液代用剤	日研化学

院内採用中止医薬品

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
真武湯エキス顆粒	2.5g/包	漢方製剤	ツムラ
スタラシドカプセル (シタラピンオクホスファート)	100mg/Cp	抗悪性腫瘍剤	日本化薬
ベプシド S カプセル (エトポシド)	50mg/Cp	抗悪性腫瘍剤	ブリistol・マイヤーズ
ペンフィル 10R 注 (ヒトインスリン)	300 単位/3mL/筒	インスリン製剤	ノボ・ノルディスクファーマ
ミオテクター (塩化ナトリウム, 塩化カリウム, 等)	計 500mL/組	心停止・心筋保護液	持田

※在庫がなくなり次第, 処方中止とします。

販売中止医薬品

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
ダン・リッチカプセル (塩酸フェニルプロパノールアミン, 他)	配合剤	上気道炎治療剤	住友

※在庫がなくなり次第, 処方中止とします。

製剤変更医薬品

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
メプチンエアー (塩酸プロカテロール)	(10μg/噴霧) 5mL/本 〈代替フロン製剤〉	気管支拡張剤	大塚
※メプチンキッドエアー (塩酸プロカテロール)	(5μg/噴霧) 2.5mL/本 〈代替フロン製剤〉	気管支拡張剤	大塚
シプロキサ注 (シプロフロキサシン)	300mg/瓶 ⇒ 300mg/袋	ニューキノロン系抗菌剤	バイエル

※旧製剤品の在庫がなくなり次第, 変更とします。

※: 院外採用のみ

名称変更医薬品

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
クリスピン注 1 号 ⇒ トラマール注	100mg/2mL/A	鎮痛剤	日本新薬

※旧名称品の在庫がなくなり次第, 変更とします。

院外処方医薬品(追加分)

医薬品名 (成分名)	規格・単位	薬品分類	会社名
アーチスト錠 (カルベジロール)	1.25mg, 2.5mg/錠	持続性高血圧・狭心症治療剤	第一
修治ブシ末 N (修治ブシ)	原末	生薬製剤	ツムラ
ニコチン酸アミド散 (ニコチン酸アミド)	100mg/g	ニコチン酸アミド製剤	鳥居
マクサルト RPD 錠 (安息香酸リザトリプタン)	10mg/錠	片頭痛治療剤	エーザイ
ムコスタ顆粒 (レバミピド)	100mg/0.5g/包	胃炎・胃潰瘍治療剤	大塚
ユーゼル錠 (ホリナートカルシウム)	25mg/錠	還元型葉酸製剤	大鵬
リバロ錠 (ピタバスタチンカルシウム)	1mg, 2mg/錠	HMG-CoA 還元酵素阻害剤	興和
ペンタサ注腸 (メサラジン)	1g/100mL/本	潰瘍性大腸炎治療剤	日清キョーリン

新規院内処方医薬品について

＊ホリナートカルシウム Calcium Folate

【商】ユーゼル Uzel 大鵬

内用：錠剤 1 錠中 25mg

【警】○ホリナート・テガフル・ウラシル療法は、テガフル・ウラシル配合剤の細胞毒性を増強する療法であり、本療法に関連したと考えられる死亡例が認められているので、緊急時に十分に措置できる医療施設及び癌化学療法に十分な経験を有する医師のもとで、禁忌、慎重投与の項を参照して適応患者の選択を慎重に行い実施すること。○本療法において重篤な下痢が起こることがあり、その結果、致命的な経過をたどることがあるので、患者の状態を十分観察し、激しい腹痛、下痢等の症状があらわれた場合には、直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。また、脱水症状があらわれた場合には補液等の適切な処置を行うこと。○本療法において劇症肝炎等の重篤な肝障害、重篤な骨髄抑制が起こることがあり、その結果、致命的な経過をたどることがあるので、定期的（少なくとも 1 クールに 1 回以上、特に投与開始から 2 クールは、各クール開始前及び当該クール中に 1 回以上）に臨床検査（肝機能検査、血液検査等）を行うなど患者の状態を十分観察し、副作用の早期発見に努めること。また、肝障害の前兆又は自覚症状と考えられる食欲不振を伴う倦怠感等の発現に十分に注意し、黄疸（眼球黄染）があらわれた場合には直ちに投与を中止し、適切な処置を行うこと。○本療法とテガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤との併用により、重篤な血液障害等の副作用が発現するおそれがあるので、本療法との併用を行わないこと。

【禁】重篤な骨髄抑制のある患者、下痢（水様便）のある患者、重篤な感染症を合併している患者、本剤の成分又はテガフル・ウラシル配合剤の成分に対し重篤な過敏症の既往歴のある患者、テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム配合剤投与中の患者及び投与中止後 7 日以内の患者、妊婦又は妊娠している可能性のある婦人

【効】〔ホリナート・テガフル・ウラシル療

法〕結腸・直腸癌に対するテガフル・ウラシルの抗腫瘍効果の増強

【用】〔ホリナート・テガフル・ウラシル療法〕ホリナート 75mg を 1 日 3 回に分けて（約 8 時間毎に）、テガフル・ウラシル配合剤と同時に投与する。テガフル・ウラシル配合剤は、1 日量としてテガフル 300～600mg 相当量（300mg/m²を基準）を 1 日 3 回に分けて（約 8 時間毎に）、食事の前後 1 時間を避けて投与する。以上を 28 日間連日投与し、その後 7 日間休薬する。これを 1 クールとして投与を繰り返す。

【副】骨髄抑制、溶血性貧血、肝障害、肝硬変、脱水症状、腸炎、精神神経障害、狭心症、心筋梗塞、不整脈、急性腎不全、ネフローゼ症候群、嗅覚脱失、間質性肺炎、急性膀胱炎、口内炎、消化管潰瘍、消化管出血、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、ショック、アナフィラキシー様症状 赤血球・血色素・ヘマトクリット値・好中球減少、好酸球増多、リンパ球減少、好塩基球増多、MCV 増加、AST・ALT・総ビリルビン・Al-P 上昇、黄疸、脂肪肝、蛋白尿、BUN・クレアチニン上昇、血尿、食欲不振、悪心・嘔吐、下痢、口内炎、便秘、味覚異常、腹痛、心窩部痛、腹部膨満感、胃不快感、胃重感、舌炎、口唇炎、胸やけ、口角炎、口渴、胃炎、嚥下困難、腹鳴、倦怠感、頭痛、頭重感、耳鳴、眩暈、しびれ、興奮、色素沈着、皮膚炎、皮膚の乾燥、手足症候群、皮膚びらん、角化、紅潮、光線過敏症、水疱、DLE 様皮疹、爪の異常、脱毛、浮腫、発疹、痒疹、蕁麻疹、発赤、動悸、胸痛、胸内苦悶感、心電図異常、総蛋白低下、LDH 上昇、発熱、血糖値上昇、糖尿、血清 Na・Ca 低下、頻尿、血清 K 上昇・低下、血清 Cl 上昇・低下、血清 Ca 上昇、血痰、関節痛、灼熱感、結膜充血、咳・痰、血清尿酸値上昇、女性型乳房、筋肉痛、CK 上昇

【妊】不可 【授】授乳中止

【未・新・乳・幼・小】未確立

【貯】遮光

＊インターフェロンα-2b Interferon α-2b

【商】イントロン A Intron A

シェリング・プラウ

注射：(100) 1 瓶中 300 万国際単位

【警】本剤の投与により間質性肺炎、自殺企図があらわれることがあるので、「使用上の注意」に十分留意し、患者に対し副作用発現の可能性について十分説明すること。

【禁】本剤又は他のインターフェロン製剤に対し過敏症の既往歴のある患者、ワクチン等の生物学的製剤に対し過敏症の既往歴のある患者、小柴胡湯を投与中の患者、自己免疫性肝炎の患者

【効】○次のいずれかの C 型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善：〔本剤単独の場合〕血中 HCV-RNA 量が高値ではない患者 〔リバビリンとの併用の場合〕血中 HCV-RNA 量が高値の患者、インターフェロン製剤単独療法で無効の患者又はインターフェロン製剤単独療法後再燃した患者 ○HBe 抗原陽性でかつ DNA ポリメラーゼ陽性の B 型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善 ○腎癌、慢性骨髓性白血病、多発性骨髄腫

【用】○C 型慢性肝炎におけるウイルス血症の改善：使用にあたっては、HCV-RNA が陽性であることを確認したうえで行う。1 日 1 回 600 万～1,000 万国際単位を週 6 回又は週 3 回筋注する。リバビリンを併用する場合、リバビリンは 1 日 600～800mg を 1 日 2 回に分けて連日朝夕食後投与する。リバビリンは、体重 60kg 以下の場合は 1 日 600mg、体重 60kg を超える場合は 1 日 800mg とする。投与量を 1 日 600mg とする場合は朝食後 200mg、夕食後 400mg を投与する。○HBe 抗原陽性でかつ DNA ポリメラーゼ陽性の B 型慢性活動性肝炎のウイルス血症の改善：1 週目 1 日 1 回 600 万～1,000 万国際単位、2 週目より 1 日 1 回 600 万国際単位を筋注する。ただし、投与開始日は 1 日 1 回 300 万国際単位又は 600 万国際単位を投与する。○腎癌、慢性骨髓性白血病、多発性骨髄腫：1 日 1 回 300 万～1,000 万国際単位を筋注する。

【副】間質性肺炎、肺線維症、肺水腫、抑うつ、自殺企図、意識障害、痙攣、見当識障害、譫妄、錯乱、幻覚、躁状態、妄想、統合失調症様症状、失神、痴呆様症状、難聴、興奮、自己免疫現象、

糖尿病、肝障害、急性腎不全、再生不良性貧血、汎血球減少、無顆粒球症、白血球・血小板減少、ショック、心筋症、心不全、心筋梗塞、狭心症、心室性不整脈、高度房室ブロック、洞停止、高度徐脈、心房細動、消化管出血、消化性潰瘍、虚血性大腸炎、脳出血、脳梗塞、敗血症、網膜炎、Stevens-Johnson 症候群、Lyell 症候群、横紋筋融解症 溶血性尿毒症症候群 発熱、頭痛・頭重感、全身倦怠感、筋肉痛、悪寒・戦慄、関節痛、易刺激性、感情不安定、昏迷、片頭痛、眠気、不安、不眠、焦燥、めまい、知覚異常、神経過敏、思考異常、感情鈍麻、健忘、集中力障害、尿失禁、発疹、蕁麻疹、痒痒感、貧血、血小板減少、顆粒球減少、リンパ球・好酸球・単球增多、リンパ節症、顆粒球增多、リンパ球減少、出血傾向、AST・ALT・Al-P・γ-GTP・LDH 上昇、黄疸、BUN・クレアチニン上昇、蛋白尿、血尿、頻尿、排尿障害、尿沈渣異常、浮腫、頻脈、動悸、血圧上昇、顔面潮紅、徐脈、血圧低下、末梢性虚血、心電図異常、房室ブロック、食欲不振・亢進、脱水、腸炎、悪心・嘔吐、消化不良、胸やけ、腹部膨満感、腹痛、下痢、便秘、口内炎、口唇炎、口渴、嚥下障害、消化管障害、胃炎、舌炎、歯周・歯肉炎、急性腭炎、脱毛、皮膚炎、多形紅斑、紅斑、湿疹、乾癬、紫斑、皮膚乾燥、光線過敏症、落屑、水疱、爪疾患、皮膚変色、瘡、急性腭炎、脳波異常、構語障害、麻痺、下腿痙攣、四肢のしびれ、関節痛、筋肉痛、緊張亢進、無力症、錐体外路症状、ニューロパシー、神経痛、CK 上昇、肺塞栓症、胸膜炎・胸水、血痰、鼻炎、肺炎、鼻閉、副鼻腔炎、咳嗽、呼吸困難、喀痰増加、過呼吸、気管支痙攣、あくび、視野狭窄、視神経炎、乳頭浮腫、霧視、流涙、網膜出血、網膜白斑、眼痛、羞明、結膜炎、注射部疼痛・発赤・硬結・皮膚潰瘍・壊死、移植後拒絶反応、感染症、不正出血、嗅覚障害、電解質異常、サルコイドーシス、性欲減退、多汗、高尿酸血症、耳鳴、アルブミン減少、血清総蛋白減少、体重減少、味覚異常、ほてり、胸部・背部・咽頭部の疼痛、勃起障害、膀胱炎、悪液質、グロブリン上昇、高蛋白血症、低コレステロール血症、高トリグリセライド血症、月経異常、単純疱疹、各種自己抗体の陽性化、腹水、膿瘍

【妊】有益のみ **【授】**授乳回避

【未・新・乳・幼・小】未確立

【貯】10℃以下

＊塩酸ドブタミン Dobutamine Hydrochloride

【商】ドブポン Dobupum 協和醗酵

注射：液剤^㉑ 1 筒（50mL）中 150mg

【禁】肥大型閉塞性心筋症（特発性肥厚性大動脈弁下狭窄）の患者，塩酸ドブタミンに対し過敏症の既往歴のある患者

【効】急性循環不全における心収縮力増強

【用】1～5μg/kg/分を持続静注する。必要ある場合には 20μg/kg/分まで増量できる。

【副】頻脈・期外収縮，血圧低下，過度の血圧上昇，動悸，胸部不快感，狭心痛，前胸部熱感，息切れ，悪心，腹部痛，注射部位の発赤・腫脹，血清 K 低下，頭痛，発疹，好酸球増多

【妊】未確立，有益のみ

【未・新・乳・幼・小】慎重

＊インスリンアスパルト Insulin Aspart

【商】ノボラピッドフレックスペン

NovoRapid FlexPen

ノボ・ノルディスクファーマ

注射：液剤^㉑ 1 筒（3mL）中 300 単位

【禁】低血糖症状を呈している患者，本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効】インスリン療法が適応となる糖尿病

【用】初期は 1 回 2～20 単位を毎食直前に皮下注する。持続型インスリン製剤の投与量を含めた維持量は 1 日 4～100 単位である。

【副】低血糖，アナフィラキシーショック 血管神経性浮腫 アレルギー，蕁麻疹，発疹，痒痒感，血圧降下，肝機能障害，食欲不振，嘔吐，嘔気，腹痛，治療後神経障害，屈折異常，糖尿病網膜症の顕在化・増悪，注射部位の疼痛・発赤・腫脹・硬結・リポディストロフィー・発疹，注射部位の痒痒感，呼吸困難，浮腫，発熱，倦怠感，めまい

【妊】注意

【小】インスリン需要量変化注意

【貯】遮光，2～8℃